

「参加」と作業療法

特集にあたって

人の健康や暮らしにとって「参加」の果たす役割は大きい。今回は、ICFでも重要な要素として示されている「参加」にかかわる作業療法について特集する。

はじめに春名氏から、ICFの示す「参加」について解説いただき、そこで期待されるOTの役割について執筆いただいた。次いで、清山氏らから福島の現状を通して、参加が人の健康や暮らしに与える影響について、OTの視点からお伝えいただいた。次に続く参加に対する豊かな支援とは異なる厳しい現実ではあるが、多くの学びが得られることと思う。

OTの実践としては、地域の方々の社会参加やまちづくり等、OTならではの視点で活動を展開されている「NPO法人ちゃんくす」の取り組みについて、西上氏からインタビュー形式でお話しいただいた。ついで、荏山氏からは認知症の方の「参加」の場づくりとしての認知症カフェの実施について、伊藤氏らからは重度重複障害をもつかなこさんの社会参加へのチームでの支援についてご報告いただいた。

最後に河本氏に報告いただいたスウェーデンの取り組みは、今後、高齢者の参加の場づくりを地域で展開する一つの手法として多いに役立つものといえる。

本特集が、OTの視点を活かした多くの参加支援につながることで、また新たな実現となることを願っている。

(竹内さをり)

企画担当

竹内 さをり (甲南女子大学, 作業療法士)

中村 春基 (兵庫県立リハビリテーション中央病院, 作業療法士)